

令和8年6月15日(月)

令和8年度 延岡保健所運営協議会

麻疹について

宮崎県延岡保健所 健康づくり課

今回の内容

1 麻疹とは

2 麻疹の報告状況

3 麻疹の症状と経過

4 麻疹の治療と予防

5 麻疹に対する取組

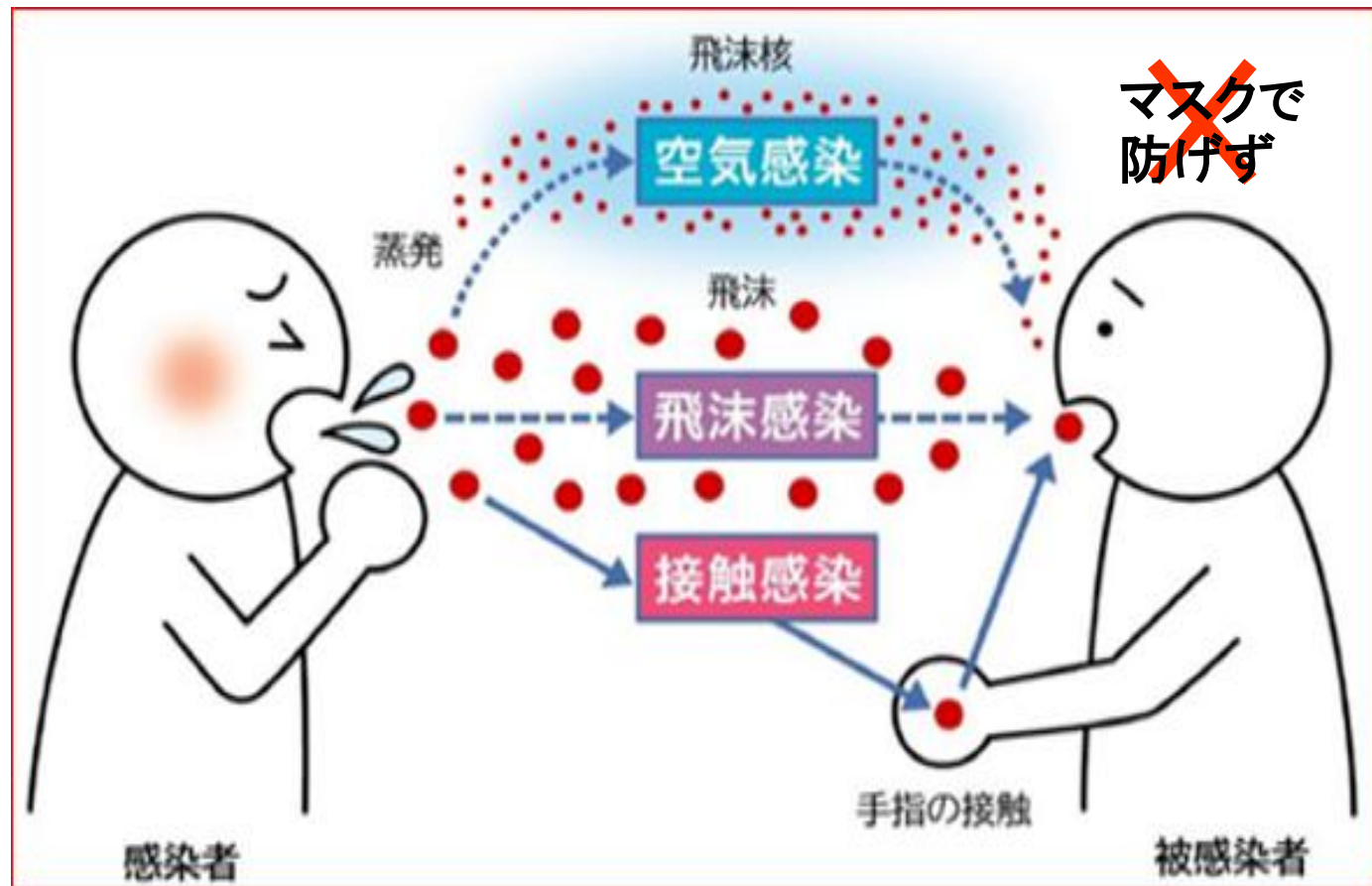
1 麻疹(はしか)とは

麻疹ウイルス の感染で生じる 全身感染症

感染力が強く
少しの麻疹ウイルスとの接触でも
約90%感染する。

感染経路は
接触、飛沫、**空気感染**

すれ違ったくらいでも感染
感染力が非常に強い



麻疹ウイルスの感染力

感染者1人から何人に感染するのか

(基本再生算数)

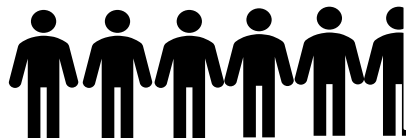
季節性インフルエンザ

1.2~1.4人



百日咳ウイルス

5.5人



風疹ウイルス

6~7人



ムンプスウイルス

(おたふくかぜ)

10~12人



水痘ウイルス

10~12人



麻疹ウイルス

12~18人



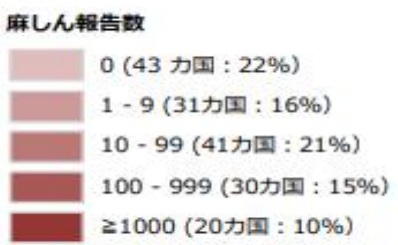
伝染性感染症の中で**最強**

2 麻疹の報告状況（世界：2026年2月現在）

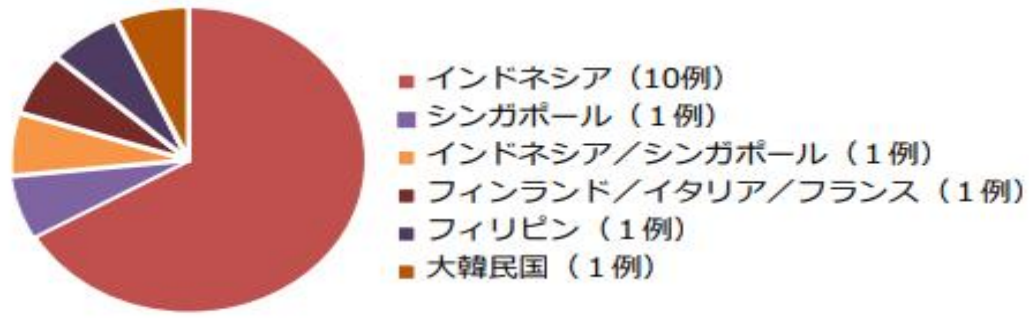


麻疹報告数上位10の国々

国名	報告数
イエメン	11,288
インドネシア	10,744
インド	9,666
パキスタン	7,361
アンゴラ	4,843
ラオス人民民主共和国	3,167
メキシコ	2,846
ナイジェリア	2,755
アフガニスタン	2,668
モンゴル	2,551



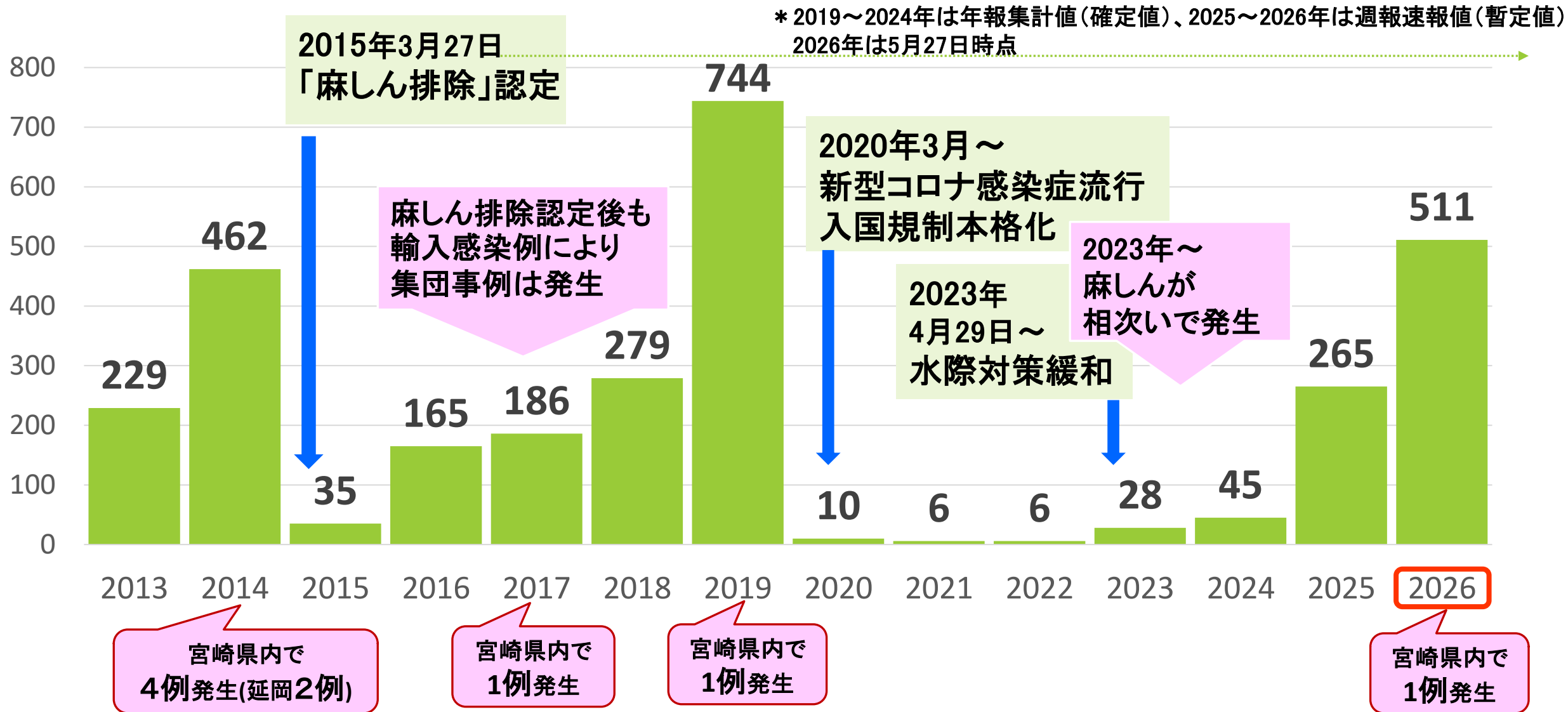
日本国内で届出された麻疹症例の推定感染地域



WHO(世界保健機関) 麻疹報告数 (2025年7月～2025年12月)
令和8年2月現在；一部改変

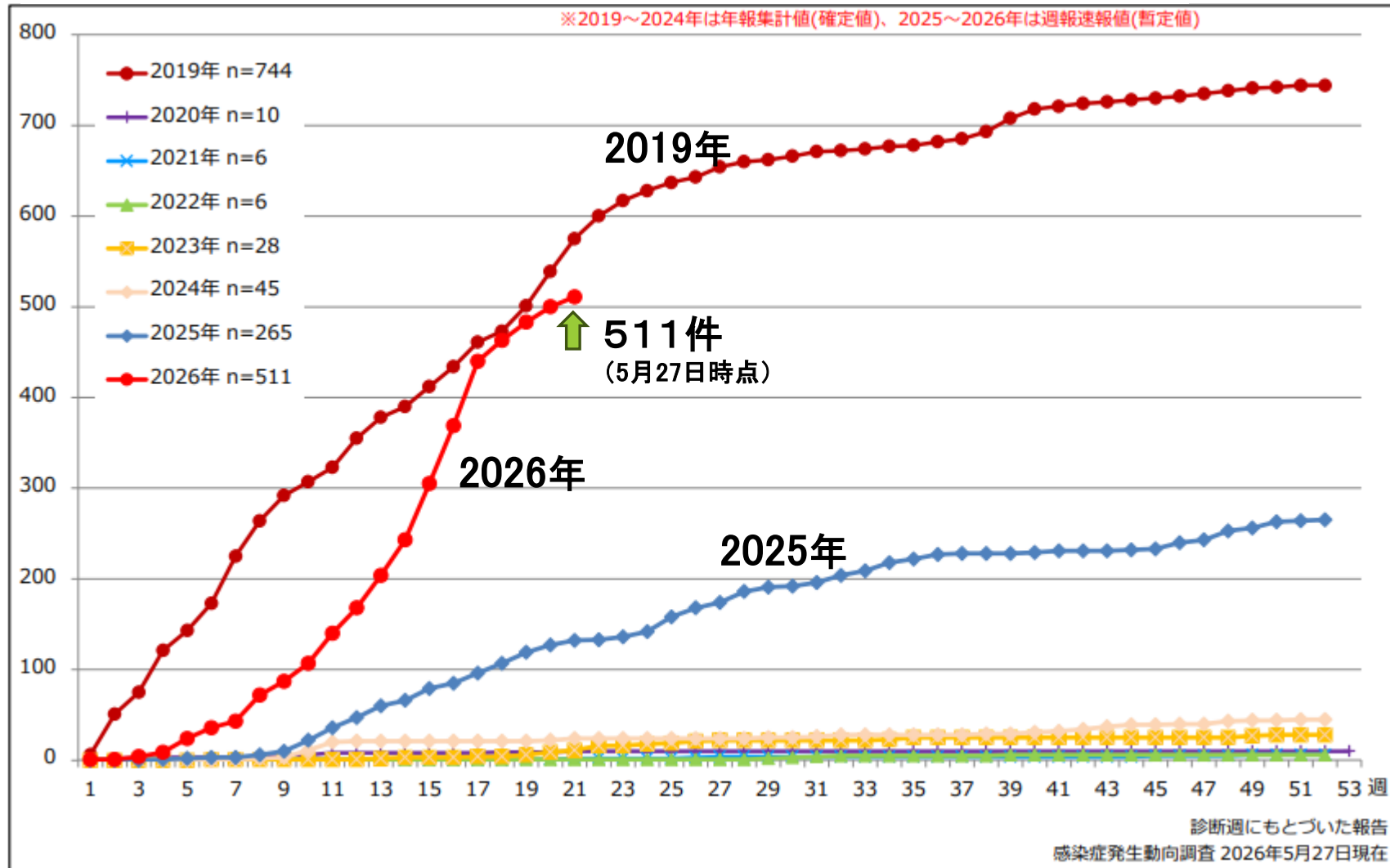
2026年第1週～第9週 (令和7年12月29日～令和8年3月4日)

2 麻疹の報告状況（日本国内：2013年以降）



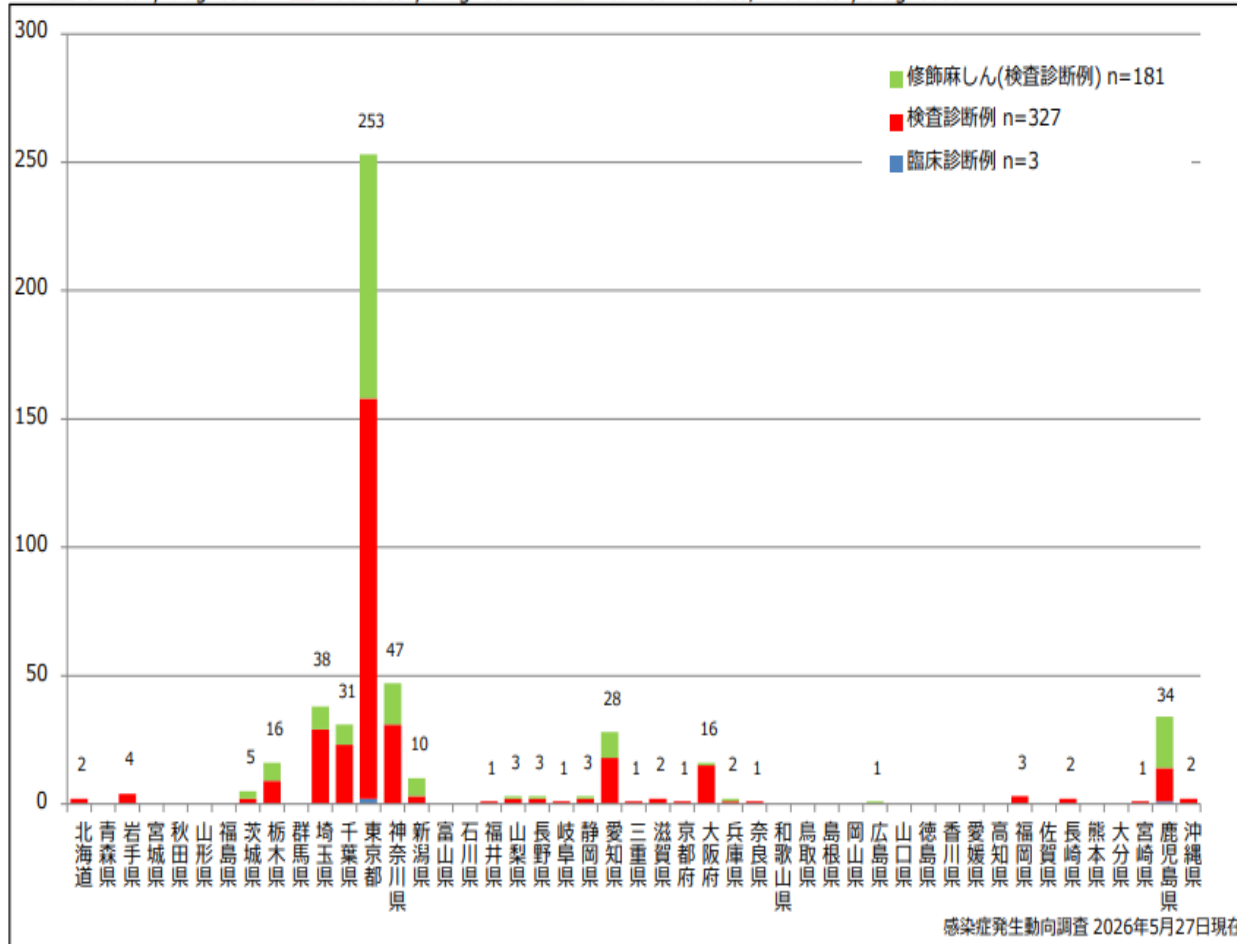
2 麻疹の報告状況（日本国内：2019年以降）

麻疹累積報告数の推移 2019～2026年（※2026年は第1週～第21週）

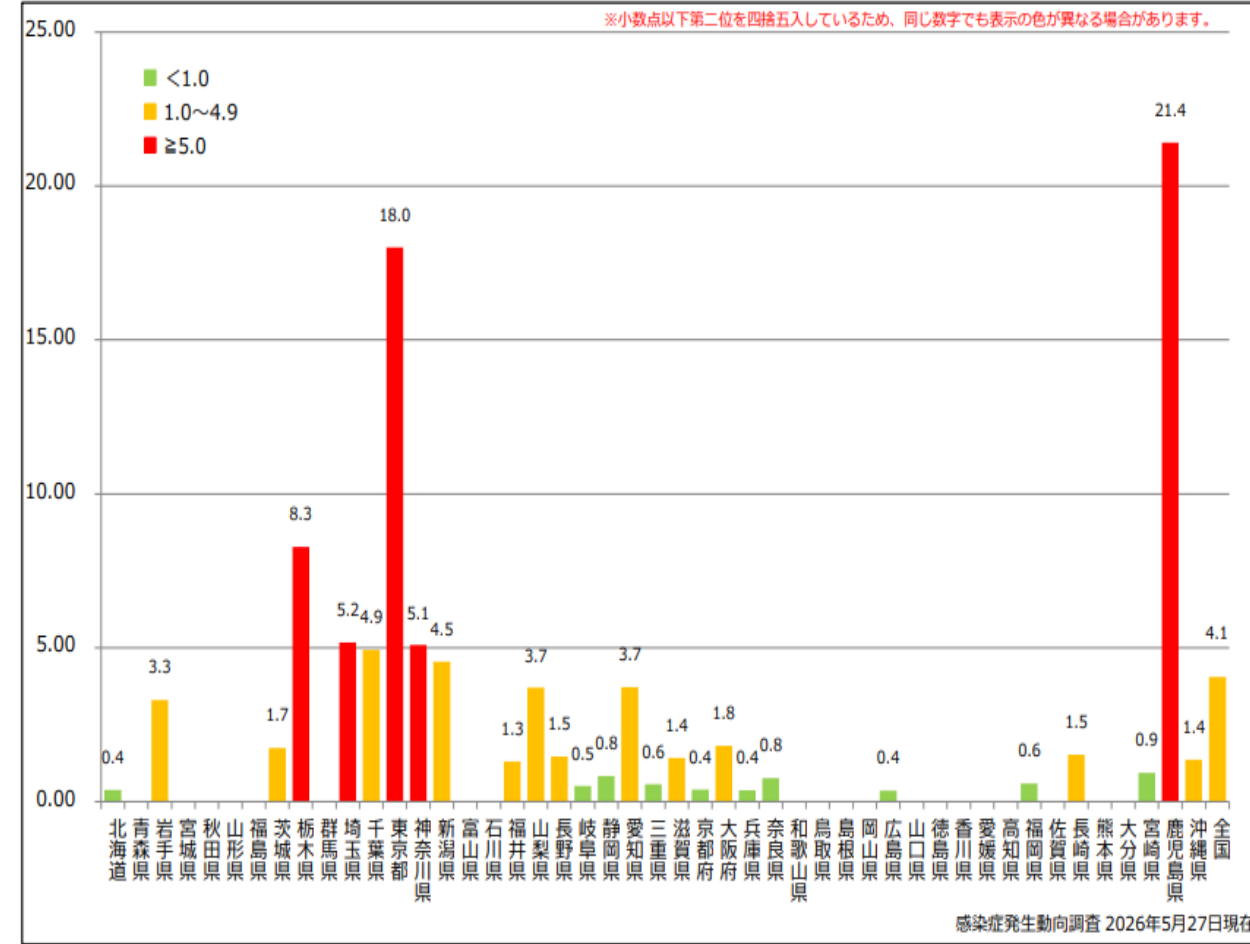


2 麻疹の報告状況 (国内：2026年第1～21週)

都道府県別病型別麻疹累積報告数(n=511)



都道府県別人口百万人あたり麻疹報告数(n=511)



3-1 麻疹の症状と経過

感染後、10日から12日間の潜伏期後発症。麻疹の経過は通常、カタル期(前駆期)、発疹期、回復期の順に進みます

	潜伏期	カタル期				発疹期					回復期			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
発熱	↑ 感染後 平均 10日 から 12日	感染力が最も高い時期				熱が半日程度下がった後、再度発熱。39℃以上の高熱					発疹出現後3~4日で解熱			
発疹 ・ コプリック斑		発疹が現れる1~2日前ごろに頬粘膜(口のなかの頬の裏側)にやや隆起した1mm程度の小さな白色の斑点(コプリック斑)が出現。口腔粘膜の発赤。口蓋部には赤い斑点状の粘膜疹がみられ、点状出血を伴うこともある				鮮紅色の発疹(耳後部、頸部、前額部から出始め、翌日には顔面、体幹部、上腕に及び、2日後には四肢末端にまで広がる) コプリック斑は発疹出現後2日目を過ぎる頃までに消失					発疹は黒ずんだ色素沈着となり、しばらく残る			
カタル症状		カタル症状(咳、鼻汁、くしゃみなどの上気道症状と結膜充血、目やになどの結膜炎症状)が現れて次第に強くなる				カタル症状は一層強くなる					カタル症状は軽快			
全身状態		倦怠感 小児では不機嫌 乳幼児では消化器症状として、下痢、腹痛を伴うことも多い									全身状態は回復			

← 感染可能期間(発症日2日前から解熱後3日程) →

3-2 麻疹の症状

麻疹の発疹

発疹同士がくっつく



コプリック斑

<参考>風疹の発疹

発疹同士は離れる



麻疹の発疹: ぼたん雪、風疹の発疹: 粉雪

「麻の服にボタン、風に舞う粉雪」



引用一部追記: 日本医師会編「感染症の診断・治療ガイドライン」より

3-3 麻疹の症状

重篤な合併症

肺炎(麻疹肺炎):入院を要することが多く、特に乳幼児・免疫不全者で重症化しやすい

脳炎(麻疹脳炎):約1,000人に1人に発症。後遺症として知的障害・麻痺が残ることがある

SSPE(亜急性硬化性全脳炎)【指定難病】:数年後に発症する致死的な脳炎

1歳未満の罹患で発症率が高い

中耳炎:頻度が高い合併症。難聴につながることも

角膜炎・失明:栄養状態が悪い場合に特に多い

死亡:先進国でも1,000~2,000人に1人程度。発展途上国ではさらに高い

合併症がなければ徐々に回復しますが、麻疹ウイルスは感染後に既存の免疫記憶細胞を破壊するため、免疫機能の低下が数週間~数ヶ月続きます。これを免疫健忘(immune amnesia)といい、回復後も他の感染症にかかりやすくなることが知られています。

「麻疹は子どもの軽い病気」は間違いです

3-4 麻疹の症状

修飾麻疹

近年、**1回のワクチン接種を受けた方や、過去に接種歴のある方が**麻しんに感染した場合、典型的な経過をたどらない「修飾麻疹」の報告が増加しています。

発熱が軽度であったり、発疹が淡く分かりにくかったり、コプリック斑が見られないこともあります。症状が軽くても感染力は保持されている場合があるため、麻しんの流行期には「発熱＋発疹」があれば麻しんを疑い、医療機関にご相談ください。

症状は軽症、感染力は弱い

潜伏期間は、延びる可能性あり

症状のみからの診断は困難

検査・診断が重要

4 麻疹の治療と予防

麻疹の治療

麻疹に対する特効薬(抗ウイルス薬)はなく、治療は症状に合わせた対症療法が中心

基本的な対処

- ◇十分な安静と水分補給
- ◇発熱に対する解熱剤
(アセトアミノフェン)
- ◇栄養管理(特にビタミンAの補充が重要)
- ◇咳・鼻水などへの対症療法

入院が必要なケース

- ◇高熱・脱水が続く場合
- ◇肺炎・呼吸困難を合併した場合
- ◇脳炎の兆候(意識障害・けいれん)
- ◇乳幼児・免疫不全者・妊婦の重症例

麻しんによる免疫力低下で細菌性肺炎・中耳炎などの二次感染が起こった場合は、抗菌薬が使用されます。

最善の対策は感染そのものをワクチンで予防することです。

第1期(1歳頃) 第2期(就学前の1年間)の2回のワクチン接種でほぼ確実に予防可能
1回接種で約93~95%、2回接種で97~99%の予防効果がある
麻疹の流行を防ぐには、集団全体のワクチン接種率を**95%以上**に維持することが必要

4 麻疹の予防(全国ワクチン定期接種状況)

第1期 麻しん風しんワクチン接種状況

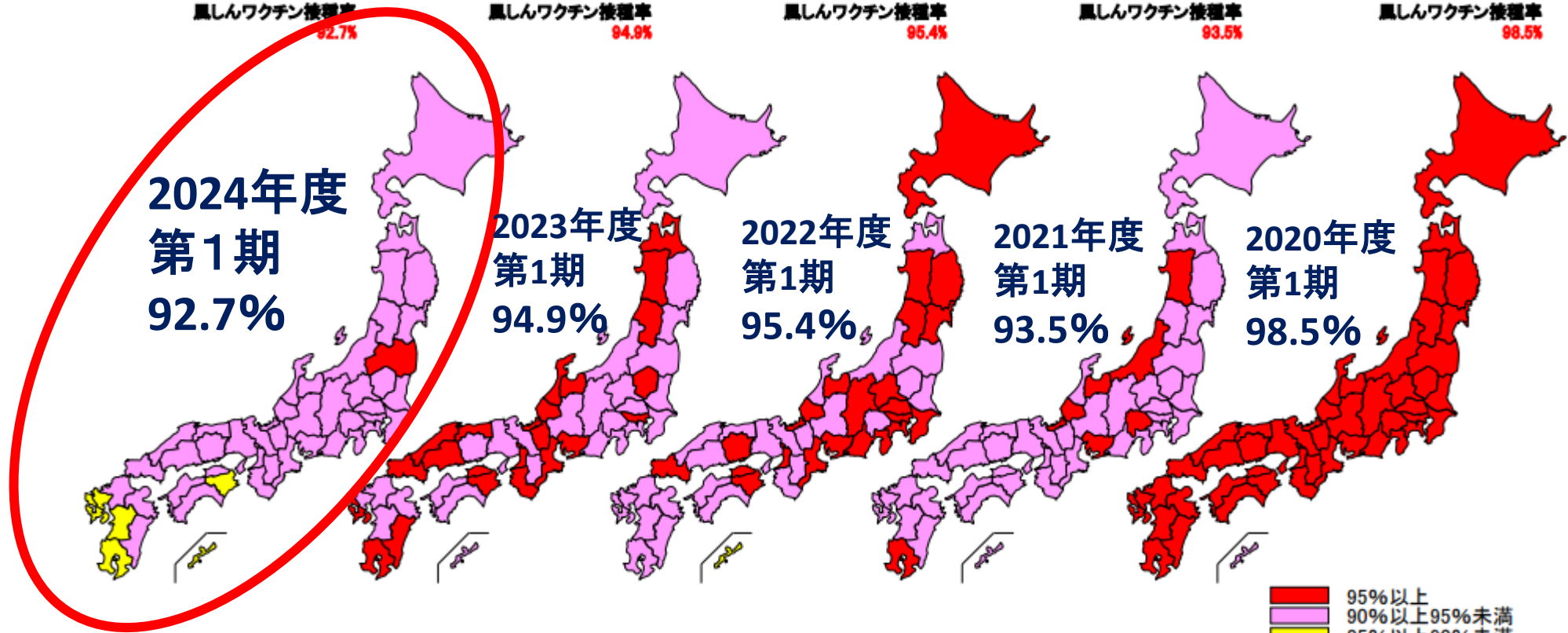
令和06年度
(2024年度)
麻しんワクチン接種率
92.7%
風しんワクチン接種率
92.7%

令和05年度
(2023年度)
麻しんワクチン接種率
94.9%
風しんワクチン接種率
94.9%

令和04年度
(2022年度)
麻しんワクチン接種率
95.4%
風しんワクチン接種率
95.4%

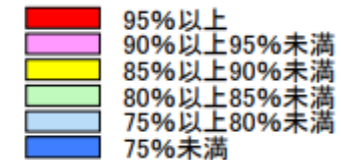
令和03年度
(2021年度)
麻しんワクチン接種率
93.5%
風しんワクチン接種率
93.5%

令和02年度
(2020年度)
麻しんワクチン接種率
98.5%
風しんワクチン接種率
98.5%



※麻しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

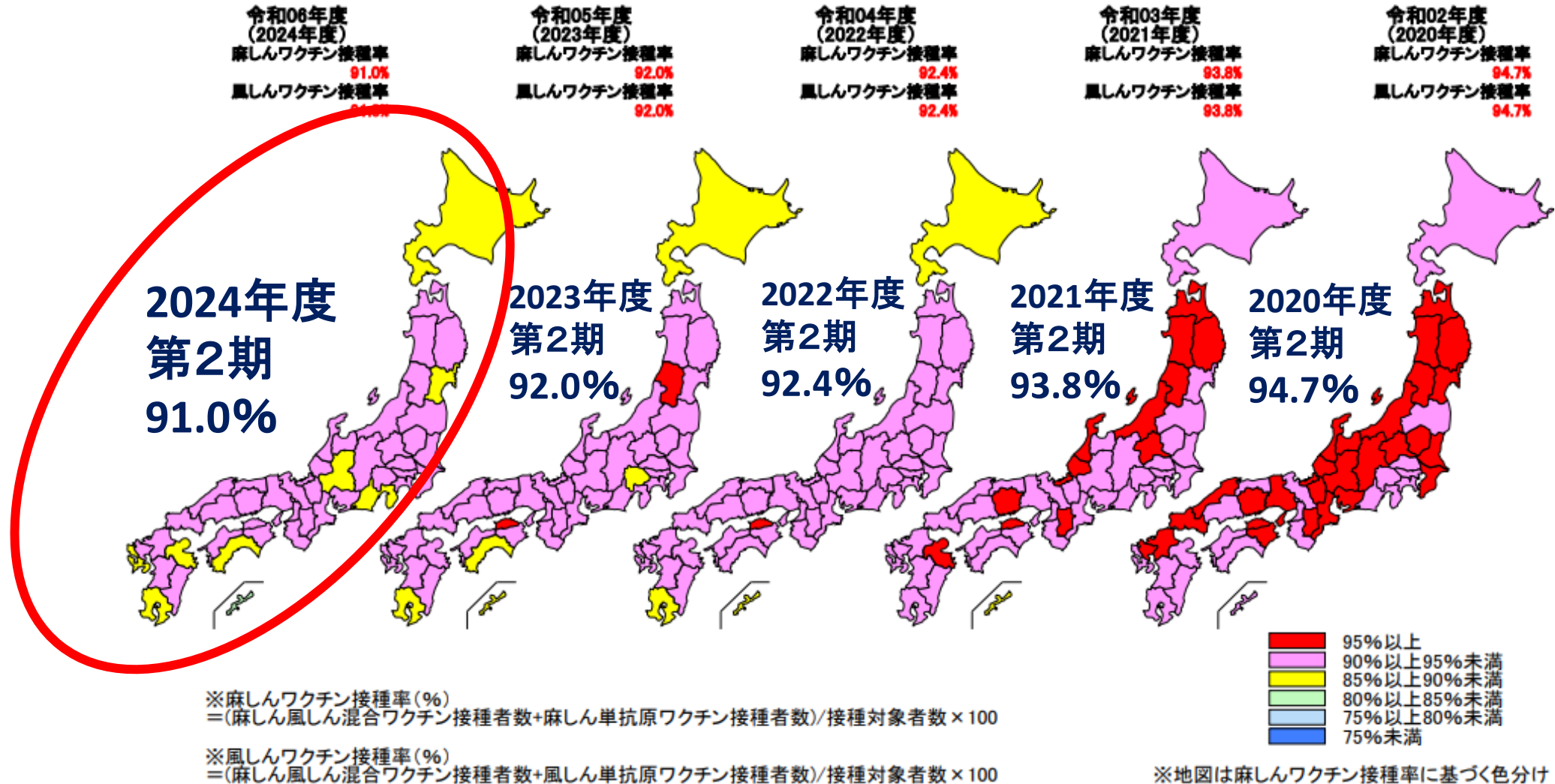
※風しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100



※地図は麻しんワクチン接種率に基づく色分け

4 麻疹の予防(全国ワクチン定期接種状況)

第2期 麻しん風しんワクチン接種状況



4 麻疹の予防(県内ワクチン定期接種状況)

第1期		2024年度 第1期 2024年4月1日～2025年3月31日					
		95%以上	90～95%未満	80～90%未満	70～80%未満	70%未満	
順位	市町村(特別区)名	麻疹風しんワクチン接種対象者数(人):①	MRワクチン接種者数(人):②	麻疹単抗原ワクチン接種者数(人):③	風しん単抗原ワクチン接種者数(人):④	麻疹ワクチン接種率(%):⑤=(②+③)/①×100	風しんワクチン接種率(%):⑥=(④)/①×100
	合計	6,825	6,147	0	0	90.1	90.1
1	串間市	68	68	0	0	100.0	100.0
	綾町	29	29	0	0	100.0	100.0
3	高千穂町	50	49	0	0	98.0	98.0
4	小林市	217	212	0	0	97.7	97.7
5	木城町	28	27	0	0	96.4	96.4
6	えびの市	63	58	0	0	92.1	92.1
7	宮崎市	2,761	2,538	0	0	91.9	91.9
8	高鍋町	105	96	0	0	91.4	91.4
9	国富町	108	98	0	0	90.7	90.7
10	日向市	382	344	0	0	90.1	90.1
11	延岡市	744	665	0	0	89.4	89.4
12	都城市	1,274	1,138	0	0	89.3	89.3
13	西都市	129	114	0	0	88.4	88.4
14	門川町	107	93	0	0	86.9	86.9
15	都農町	71	61	0	0	85.9	85.9
16	日南市	230	196	0	0	85.2	85.2
17	椎葉村	12	10	0	0	83.3	83.3
18	新富町	109	89	0	0	81.7	81.7
19	三股町	164	131	0	0	79.9	79.9
20	川南町	77	61	0	0	79.2	79.2
21	高原町	34	26	0	0	76.5	76.5
	五ヶ瀬町	17	13	0	0	76.5	76.5
23	日之影町	20	14	0	0	70.0	70.0
24	西米良村	3	2	0	0	66.7	66.7
	美郷町	18	12	0	0	66.7	66.7
26	諸塚村	5	3	0	0	60.0	60.0

※ 各接種率は、小数点第二位以下を四捨五入

第2期		2024年度 第2期 2024年4月1日～2025年3月31日					
		95%以上	90～95%未満	80～90%未満	70～80%未満	70%未満	
順位	市町村(特別区)名	麻疹風しんワクチン接種対象者数(人):①	MRワクチン接種者数(人):②	麻疹単抗原ワクチン接種者数(人):③	風しん単抗原ワクチン接種者数(人):④	麻疹ワクチン接種率(%):⑤=(②+③)/①×100	風しんワクチン接種率(%):⑥=(④)/①×100
	合計	8,518	7,778	0	0	91.3	91.3
	西米良村	5	5	0	0	100.0	100.0
1	諸塚村	10	10	0	0	100.0	100.0
	椎葉村	21	21	0	0	100.0	100.0
4	国富町	122	119	0	0	97.5	97.5
	高千穂町	81	79	0	0	97.5	97.5
6	えびの市	111	106	0	0	95.5	95.5
7	川南町	112	106	0	0	94.6	94.6
8	門川町	138	130	0	0	94.2	94.2
9	日向市	428	401	0	0	93.7	93.7
10	高鍋町	146	136	0	0	93.2	93.2
11	日之影町	14	13	0	0	92.9	92.9
12	延岡市	849	787	0	0	92.7	92.7
13	宮崎市	3,350	3,094	0	0	92.4	92.4
14	西都市	214	196	0	0	91.6	91.6
15	高原町	47	43	0	0	91.5	91.5
16	五ヶ瀬町	23	21	0	0	91.3	91.3
17	小林市	345	313	0	0	90.7	90.7
18	都城市	1,417	1,282	0	0	90.5	90.5
19	日南市	349	315	0	0	90.3	90.3
20	串間市	128	114	0	0	89.1	89.1
21	木城町	39	34	0	0	87.2	87.2
22	都農町	77	66	0	0	85.7	85.7
23	新富町	109	88	0	0	80.7	80.7
24	三股町	296	238	0	0	80.4	80.4
25	美郷町	26	19	0	0	73.1	73.1
26	綾町	61	42	0	0	68.9	68.9

※ 各接種率は、小数点第二位以下を四捨五入

2024年度
延岡市
ワクチン接種率

第1期 **89.4%**
(宮崎県 90.1%)

第2期 **92.7%**
(宮崎県 91.3%)

いずれも95%を
下回っている

4 麻疹の予防（ワクチンの定期接種状況）

日本の定期接種制度の変遷により、生まれた年代によって接種状況が大きく異なります。ご自身の世代を確認してください。

対象世代 子ども (1歳～中学生)	<p>✔ 定期接種2回が基本</p> <p>1歳（第1期）と就学前1年間（第2期）の2回が定期接種の対象です。この2回を確実に受けることが、お子さんを守る最も重要な対策です。母子健康手帳で接種記録を必ず確認してください。</p>
対象世代 概ね36歳以下 の成人	<p>🔍 2回接種済みか確認を</p> <p>2回定期接種が制度化された世代（1990年4月2日以降に生まれた方）ですが、接種歴が不明・1回のみの方も見られます。母子健康手帳で2回の記録を確認し、不明または未完了であれば、かかりつけ医に相談のうえ追加接種を検討してください。</p>
対象世代 36～59歳 の成人	<p>⚠ 2回接種が済んでいない方が多い世代</p> <p>この世代（1990年4月1日以前に生まれた方）は定期接種制度の変更前にあたり、1回しか接種を受けていない方が多くいます。過去に麻しんにかかった確実な記憶がない方は、抗体検査で免疫を確認するか、かかりつけ医に相談のうえMRワクチンの追加接種（任意接種）を積極的に検討してください。</p>
対象世代 60歳以上 の方	<p>i 原則、接種は不要</p> <p>ワクチン導入（1966年）以前の生まれが多く、幼少期に麻しんに自然感染し、免疫をすでにお持ちの方がほとんどです。原則として追加接種は不要とされていますが、感染歴が全くない場合や免疫不全のある方は、かかりつけ医にご相談ください。</p>

※年齢区分は目安です。接種歴・感染歴には個人差があります。判断に迷う場合はかかりつけ医にご相談ください。

5 麻疹に対する取組

感染予防に関する啓発

- 海外渡航者の輸入事例や国内伝播による感染拡大防止
- 麻疹風しんワクチン(MRワクチン)接種勧奨

⇒海外や国内の状況を踏まえ、

各関係機関宛てに注意喚起の通知発出
プレスリリースやホームページ掲載
相談対応及びリーフレット配布



麻しん・風しんから子ども達を守ろう

保護者の皆様へ

麻しん・風しん 予防接種 2回

済んでいますか?

母子健康手帳を確認しましょう

第1期	1歳になったらまず1回(1歳以上2歳未満)
第2期	小学校入学前にもう1回(5歳から7歳未満)

十分な免疫をつけるためには2回の接種が必要です。

宮崎県 麻しん風しんワクチン接種率の推移

年次	第1期	第2期
H29	95.5	95.5
H30	95.5	95.5
R1	95.5	95.5
R2	95.5	95.5
R3	95.5	95.5
R4	95.5	95.5
R5	95.5	95.5
R6	95.5	95.5
R7	95.5	95.5
R8	95.5	95.5
R9	95.5	95.5
R10	95.5	95.5
R11	95.5	95.5
R12	95.5	95.5
R13	95.5	95.5
R14	95.5	95.5
R15	95.5	95.5
R16	95.5	95.5
R17	95.5	95.5
R18	95.5	95.5
R19	95.5	95.5
R20	95.5	95.5
R21	95.5	95.5
R22	95.5	95.5
R23	95.5	95.5
R24	95.5	95.5
R25	95.5	95.5
R26	95.5	95.5
R27	95.5	95.5
R28	95.5	95.5
R29	95.5	95.5
R30	95.5	95.5
R31	95.5	95.5
R32	95.5	95.5
R33	95.5	95.5
R34	95.5	95.5
R35	95.5	95.5
R36	95.5	95.5
R37	95.5	95.5
R38	95.5	95.5
R39	95.5	95.5
R40	95.5	95.5
R41	95.5	95.5
R42	95.5	95.5
R43	95.5	95.5
R44	95.5	95.5
R45	95.5	95.5
R46	95.5	95.5
R47	95.5	95.5
R48	95.5	95.5
R49	95.5	95.5
R50	95.5	95.5

宮崎県公式チャンネル YouTube にて、啓発動画「教えて麻しん風しん」令和6年10月公開

宮崎県 詳しい情報、お住いの市町村の予防接種担当窓口はこちら▶

5 麻疹に対する取組

発生時早期対応

感染症法第12条第1項

麻しん 五類感染症・全数報告対象

麻しんの場合は迅速な行政対応が必要となるため
診断後直ちに届出が必要

保健所が窓口

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式5-23

麻 し ん 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第10項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 令和 年 月 日

医師の氏名 _____
 従事する病院・診療所の名称 _____
 上記病院・診療所の所在地(※) _____
 電話番号(※) _____
 (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の類型					
患者（確定例）・感染症死亡者の死体					
2 当該者氏名	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢（0歳は月齢）	6 当該者職業	
	男 女	年 月 日	歳（ か月）		
7 当該者住所					
電話（ ） -					
8 当該者所在地					
電話（ ） -					
9 保護者氏名	10 保護者住所（9、10は患者が未成年の場合のみ記入）				
電話（ ） -					

病 型		13 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例）	2) 麻しん（臨床診断例）	①感染原因・感染経路（確定・推定）
3) 修飾麻しん（検査診断例）		1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：（ ））
11 ・発熱（月日出現）・咳・鼻汁・結膜充血 ・咽痛・コプリック斑・発疹（月日出現） ・肺炎・中耳炎・髄膜炎・クループ 状・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします）・その他（ ）		2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：（ ））
12 陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。		3 その他（ ）
診断方法		②感染地域（確定・推定）
(ア) 分離・同定による病原体の検出		1 日本国内（都道府県 市区町村）
検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ）		2 国外（国 詳細地域）
検体採取日（月 日）		※ 複数の国又は地域が該当する場合は全て記載すること。 渡航期間（出国日 年月日・入国日 年月日 国外居住者については 入国日のみで可）
結果（陽性・陰性）		③麻しん含有ワクチン接種歴
遺伝子型：（ ）		1 回目 有（歳） 無・不明
(イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出		ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明）
検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ）		接種年月日（S-H-R 年 月 日・不明）
検体採取日（月 日）		
結果（陽性・陰性）		
遺伝子型：（ ）		
(ロ) 血清中の抗体の検出		

この届

結果（ ） 医師が必要と認める事項

(カ) 臨床決定（ ）

(1、3、11から13欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、14から18欄は年齢、年月日を記入すること。
 (※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
 (*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

5 麻疹に対する取組

保健所対応

麻疹はワクチン接種で予防可能です。

海外渡航の予定のある方は、渡航先が流行国かの確認と必要であれば渡航2週間以上前にワクチン接種を推奨します。

万一、麻疹患者と接触して緊急に発症予防の必要のある方は接触後72時間以内に麻疹ワクチンの予防接種を受け発症防御する方法もありますが、100%の防御ではないので、事前のワクチン接種が重要となります。

まずは麻疹のワクチン接種状況の確認をお願いします。

陰性

発症届取下依頼
行動制限等解除

陽性

患者・接触者の
行動制限継続、健康観察継続